



しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

東証プライム 証券コード:6298

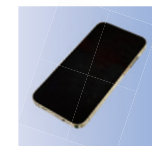
事業フィールド



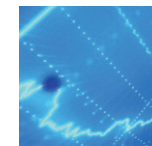
ハードディスク



精密熱処理



ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第52期 中間 ビジネスレポート

2023年4月1日～2023年9月30日



代表取締役会長兼社長 百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第52期中間ビジネスレポート』をお届けいたします。

当第2四半期における製造業の概況は、国内における新型コロナウイルスの5類移行による経済活動の活性化や、昨年来の世界的な部品納期遅延や原材料価格高騰に一部終息の兆しが見えてきていることなどから、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、巨大市場である中国経済の減速傾向や、ロシアによるウクライナ軍事侵攻や中東情勢の緊迫化などによる世界経済への影響も懸念されております。

その結果、当第2四半期の当社連結業績は、前年同期に対して売上高は4.8%増、営業利益は50.2%増と、増収・増益となりました。

今後の業績見通しにつきましては、今般見直しを行った2023年度通期の業績予想値を全うすべく、邁進してまいります。また、中期的な目標として2030年に売上1,000億円企業を、更に長期的な目標として、創立100周年(2073年)に3兆円企業の仲間入りを果たすという目標を掲げ、

これらの達成を図るための戦略を進めてまいります。

当社は、米国ライナスバイオテクノロジー社との連携のもと、自閉症、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病、癌など、様々な疾病を早期発見するビジネスの開始に向かって準備を進めております。病気に苦しむ多くの人や、そのご家族の希望となるよう、早期の事業化を目指してまいります。

このほかにも、SDGsの理念に則した量産新製品の開発を複数、強力に進めております。これら新製品の進捗は随時報告させていただいておりますので、楽しみにお待ちください。また、従来のB to Bに加え、B to Cへの積極的展開も視野に入れ、成長への加速を図ってまいります。

なお、中間配当につきましては、前年中間期の25円から10円の増配とし、35円とさせていただきます。期末配当も40円を予定しており、年間75円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月

さあ今日も、ときめきと感動の日々であれ！

創業理念

継続発展

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

成長理念

社会貢献

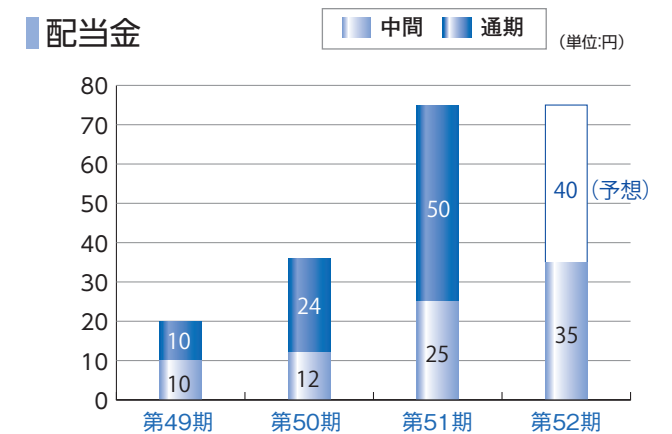
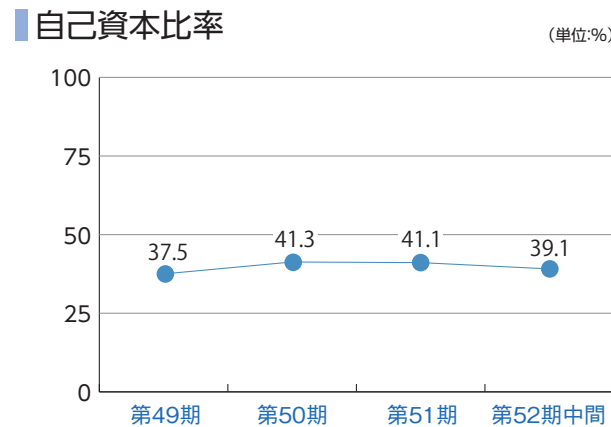
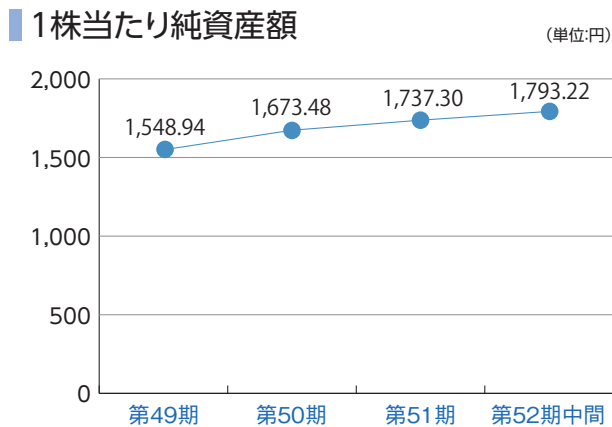
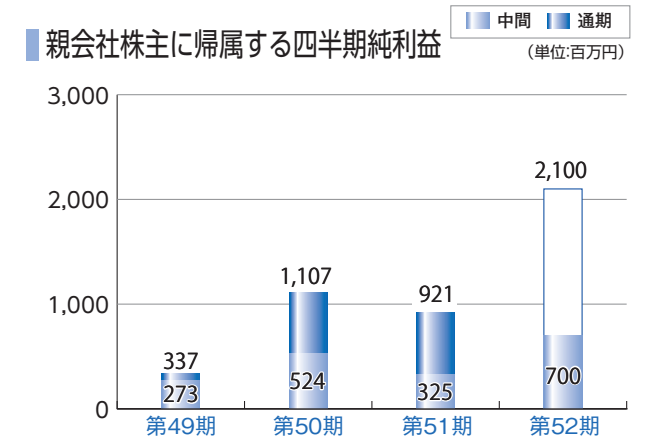
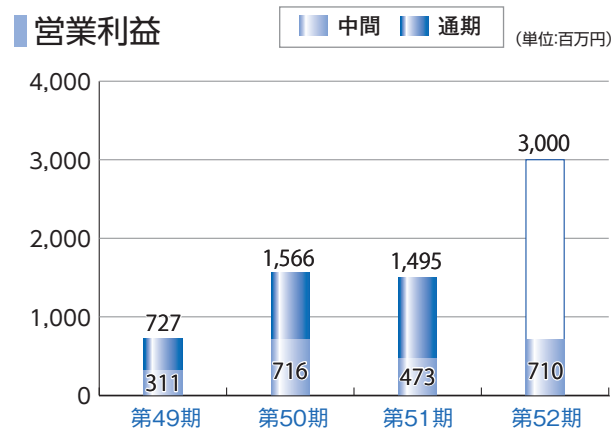
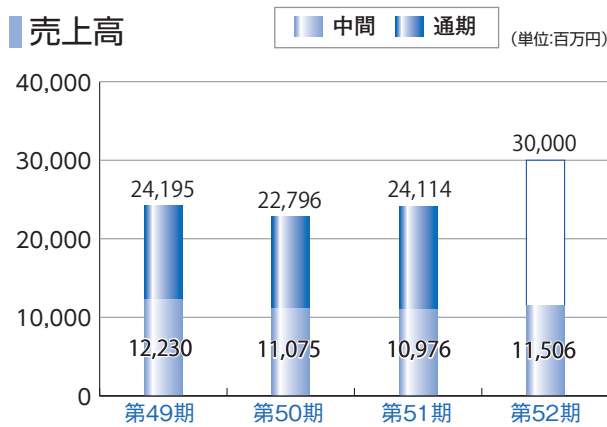
1. 社員の豊かさを追求する(経済的、精神的)
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

究極の理念

SDGs 持続可能な社会へ

- ～より多く社会に貢献するために～
1. 社員・グループの成長
 2. 全員経営・連携と競争
 3. SDGs経営の推進
 4. 納税額の拡大

| | 第49期 | 第50期 | 第51期 | 第52期中間 | 第52期通期(予想) |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 売上高 | 24,195百万円 | 22,796百万円 | 24,114百万円 | 11,506百万円 | 30,000百万円 |
| 営業利益 | 727百万円 | 1,566百万円 | 1,495百万円 | 710百万円 | 3,000百万円 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 337百万円 | 1,107百万円 | 921百万円 | 700百万円 | 2,100百万円 |
| 1株当たり純資産額 | 1,548.94円 | 1,673.48円 | 1,737.30円 | 1,793.22円 | — |
| 自己資本比率 | 37.5% | 41.3% | 41.1% | 39.1% | — |
| 配当金 | 20円 | 36円 | 75円 | 35円 | 75円 |



事業概況

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年9月30日)における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の対応が進み経済活動の活性化が図られ、緩やかではありますが、回復傾向にあります。一方、ロシアによるウクライナ軍事侵攻の長期化、中東情勢の緊迫化、中国における個人消費・不動産市場の停滞等により景気後退への懸念が高まっております。

このような経済状況のもとで、当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と販売に努めてまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高115億6百万円(前年同四半期比4.8%増)、営業利益7億10百万円(同50.2%増)、経常利益8億61百万円(同49.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益7億円(同

115.1%増)となりました。

経営の現状と通期見通し

半導体業界における車載向け関連製品の需要増により受注は好調に推移しましたが、部材納期の遅延、原価高により売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益等が前回2023年5月11日に公表しました通期の業績予想を下回る見込みとなり、2024年3月期(通期)の連結業績予想を変更いたしました。

売上高につきましては、国内外の為替・金融環境の混乱に起因する受注残の納期遅延・悪化に加え、中国の景気悪化に伴う受注高の不振が相まって売上高が伸び悩み、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

営業利益につきましては、資材調達価格や加工費等の製造原

価圧縮には努めており、一定の成果は見られるものの、上記売上高の減少の影響が大きく、前回発表予想を下回る見込みです。

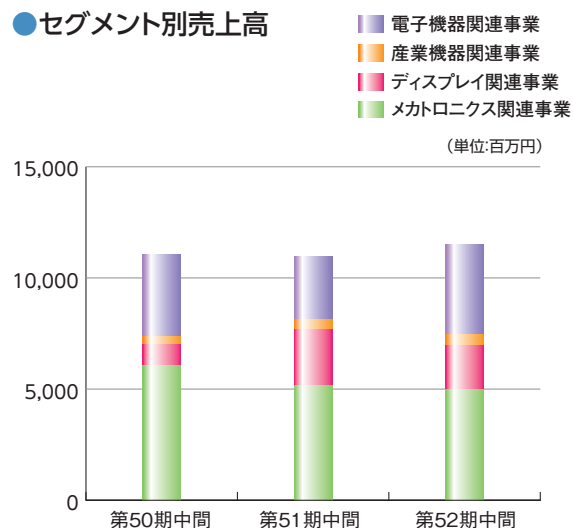
経常利益につきましても、営業利益の減少の影響により、前回発表予想を下回る見込みです。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、営業利益の減少の影響はあるものの、子会社による企業買収により発生した負ののれん発生益等により、減少額は軽減される見込みです。

その結果、2024年3月期(通期)の連結業績につきましては、売上高300億円(前連結会計年度比24.4%増)、営業利益30億円(同100.5%増)、経常利益29億円(同88.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益21億円(同128.0%増)を予想しております。

セグメント別の状況

●セグメント別売上高



メカトロニクス関連事業

クリーンコンベア等の各種自動搬送装置およびイオンビームミリング装置は堅調に推移しましたが、5G等の電子部品向けテーピング装置および自動機は、顧客の都合による設備投資の先送り等により停滞し、減収増益となりました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は49億78百万円(前年同四半期比3.9%減)となり、セグメント利益は5億80百万円(同23.7%増)となりました。

ディスプレイ関連事業

ドライエッチング装置の売上が停滞したことにより大幅に売上が減少しましたが、遠赤外線熱処理装置の売上が順調に拡大したことにより、セグメント利益が大幅に改善しました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は19億73百万円(前年同四半期比21.5%減)となり、セグメント利益は2億48百万円(前年同四半期はセグメント損失1億31百万円)となりました。

産業機器関連事業

ホームクリーニング事業から、医療リネン事業およびeコマース業界向け紙包装事業等へのビジネスモデルの転換、加えてAI光学式検査装置の製造販売等広域にわたる事業展開を図っておりますが、資材高騰等により減益となりました。

これらの結果、産業機器関連事業の売上高は4億93百万円(前年同四半期比18.5%増)となり、セグメント損失は2億44百万円(前年同四半期はセグメント損失17百万円)となりました。

電子機器関連事業

電力会社向け制御通信機器の販売並びに人工透析装置等の販売は堅調に推移し、増収増益となりました。

これらの結果、電子機器関連事業の売上高は40億60百万円(前年同四半期比41.7%増)となり、セグメント利益は3億62百万円(同249.5%増)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 当第2四半期末 2023年9月30日現在 | 前連結会計年度末 2023年3月31日現在 |
|----------------|-------------------------|--------------------------|
| 【資産の部】 | | |
| 1 流動資産 | 31,592 | 30,108 |
| 固定資産 | 10,573 | 8,631 |
| 有形固定資産 | 7,270 | 7,412 |
| 無形固定資産 | 973 | 189 |
| 投資その他の資産 | 2,329 | 1,030 |
| 資産合計 | 42,165 | 38,740 |
| 【負債の部】 | | |
| 流動負債 | 17,272 | 13,680 |
| 固定負債 | 8,375 | 9,082 |
| 2 負債合計 | 25,648 | 22,763 |
| 【純資産の部】 | | |
| 株主資本 | 16,135 | 15,852 |
| その他の包括利益累計額 | 344 | 87 |
| 新株予約権 | 37 | 37 |
| 3 純資産合計 | 16,517 | 15,977 |
| 負債純資産合計 | 42,165 | 38,740 |

連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 当第2四半期累計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日 | 前第2四半期累計期間 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日 |
|-------------------------|---|---|
| 売上高 | 11,506 | 10,976 |
| 売上原価 | 8,316 | 8,304 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,479 | 2,198 |
| 営業利益 | 710 | 473 |
| 営業外収益 | 215 | 158 |
| 営業外費用 | 64 | 54 |
| 経常利益 | 861 | 577 |
| 特別利益 | 276 | - |
| 特別損失 | 1 | 2 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,136 | 574 |
| 法人税等 | 435 | 249 |
| 四半期純利益 | 700 | 325 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 700 | 325 |

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 当第2四半期累計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日 | 前第2四半期累計期間 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日 |
|---------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △87 | 523 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,893 | △171 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,095 | △1,904 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 62 | 109 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △823 | △1,442 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 6,552 | 8,619 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 5,728 | 7,176 |

POINT 1 流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は315億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億83百万円増加しました。これは、現金及び預金において7億95百万円、商品及び製品において1億22百万円減少しましたが、仕掛品において19億82百万円、原材料・貯蔵品において2億45百万円増加したことが、主な増加要因です。

POINT 2 負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は172億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ35億92百万円増加しました。固定負債は83億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億7百万円減少しました。これは、長期借入金において8億56百万円減少したことが、主な減少要因です。その結果、負債は256億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ28億84百万円の増加となりました。

POINT 3 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は165億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億39百万円増加しました。その結果、自己資本比率は39.1%となり、1株当たり純資産は1,793円22銭となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金は、87百万円の減少(前年同期は5億23百万円の増加)となりました。

これは主に、

■プラス要因

- (1)税金等調整前四半期純利益 11億36百万円
- (2)仕入債務の増加 6億51百万円
- (3)未収消費税等の減少 3億31百万円
- (4)減価償却費 2億89百万円

■マイナス要因

- (1)棚卸資産の増加 18億88百万円
- (2)法人税等の支払額 5億66百万円

また、投資活動による資金において18億93百万円減少、財務活動による資金において10億95百万円増加した結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ8億23百万円減少し、57億28百万円となりました。

新市場・新技術の芽吹き ～先端医療分野への転換～

米国ライナスバイオテクノロジー社との協同事業(毛髪スライス技術)

当社の業務提携先であるLinusBio社(Linus Biotechnology, Inc.)は、「毛髪を用いたASD(自閉症スペクトラム)検査サービス」を開発中です。

この検査サービスは、毛髪内の様々な情報を活用し、各種疾患を発見するという画期的な技術で、米国FDA(アメリカ食品医薬品局)からブレイクスルー認証を受けております。

この検査には、当社の保有の切断技術を応用した「全自動毛髪マウンター」、「全自動毛髪スライサー」が重要な設備の一つであり、既にマウンターはニュージャージーの研究所にて稼働を開始し、スライサーも2023年末には同研究所にて稼働を開始いたします。

現在は、疾患の範囲はASD(自閉症スペクトラム)を先行させておりますが、今後、ALS(筋萎縮性側索硬化症)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、PD(パーキンソン病)、癌、膠芽腫と、幅広い分野での応用が期待されております。

先日、当社取締役がサンフランシスコを訪れ、LinusBio社の取締役と会談を行い、筆頭株主であるアショク・クリシュナムルティ氏と今後の事業展開について意見交換を行い、製品サンプルを用いた詳細な説明を受けました。

これを受け今後の事業展開を加速させるため、取締役会決議に基づき新会社設立を検討しております。

事業内容や具体的な事業展開等、新会社設立の詳細につきましては、近日中にお知らせいたします。

当社は、LinusBio社との強力な連携により、バイオテクノロジー分野におけるイノベーションを推進し、新たな企業価値の創造を目指してまいります。



2023年9月28日 サンフランシスコにて撮影
右から順に
LinusBio社CEO Manish Arora氏
当社代表取締役社長 百瀬武文
LinusBio社筆頭株主 Ashok Krishnamurthi氏
当社取締役副社長 伊藤利彦
当社ライナスプロジェクトリーダー 高橋信行



検査キットサンプル

アルツハイマー型認知症バイオマーカー測定装置(血液測定技術)

当社グループ会社は、これまでNEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)の研究開発事業にて「高感度光デジタル測定装置」の開発を進めてまいりました。

現在、この技術を更に高度化・小型化した「全自動 超高感度光デジタル測定装置 (NeuroDetect)」と、これに用いる検出キットの開発を進めております。

まずは、血液検査で脳組織から血中に分泌されるアミロイドβ、タウ蛋白、その他の神経病理学的な変化を捉えるバイオマーカーを開発して国家プロジェクト研究「BATONプロジェクト」や、国立長寿医療研究センターのバイオマーカー開発部にてお役に立てられるよう努めてまいります。



NeuroDetect

※2024/1/31～2/2 東京ビッグサイト 第23回国際ナノテクノロジー総合展(nano tech)NEDOブースにて「高感度光デジタル測定装置」を展示予定です。是非ご来場ください。

会社概要

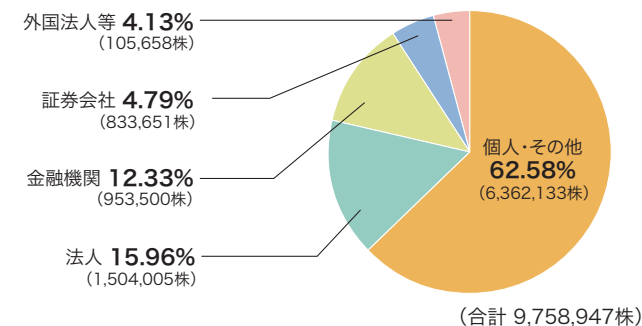
商号 ワイエイシーホールディングス株式会社
 英文表示 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.
 本社 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
 設立 1973年5月11日
 資本金 2,801百万円
 従業員数 23名 (連結823名)
 (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数 34,388,000株
 発行済株式の総数 9,758,947株
 当期末現在の株主数 8,685名
 個人・その他※ 8,497名 6,362,133株
 法人 90名 1,504,005株
 金融機関 14名 953,500株
 証券会社 40名 833,651株
 外国法人等 44名 105,658株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

(2023年11月17日現在)

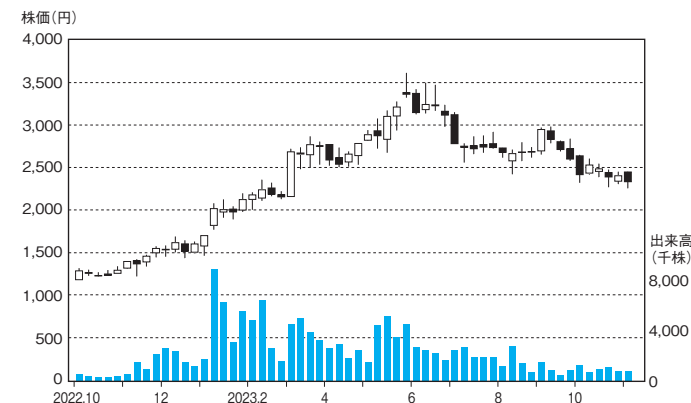
| | |
|------------|--------------|
| 代表取締役会長兼社長 | 百瀬 武文 |
| 取締役副社長 | 伊藤 利彦 |
| 取締役専務執行役員 | 大倉 章裕 |
| 取締役常務執行役員 | 畠山 督 |
| 取締役執行役員 | 西坂 昌伯 |
| 取締役 | 木船 常康 ※社外取締役 |
| 取締役 | 森林 育代 ※社外取締役 |
| 取締役 | 奥村 和仁 ※社外取締役 |
| 常勤監査役 | 辻 慎司 |
| 監査役 | 高田 直規 ※社外監査役 |
| 監査役 | 飯田 哲郎 ※社外監査役 |
| 執行役員 | 副島 幸雄 |
| 執行役員 | 青木 康浩 |
| 執行役員 | 麻生 知徳 |
| 執行役員 | 中津 純一 |

大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|-------------------------|---------|---------|
| 株式会社モモタケ | 1,220 | 12.50 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 680 | 6.97 |
| 百瀬 武文 | 327 | 3.36 |
| 楽天証券株式会社 | 153 | 1.57 |
| 岩崎 泰次 | 105 | 1.08 |
| 株式会社SBI証券 | 102 | 1.04 |
| 株式ロマン会 | 96 | 0.98 |
| セントラル短資株式会社 | 90 | 0.92 |
| 松井証券株式会社 | 66 | 0.67 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 61 | 0.63 |

※当社は、自己株式を569,080株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



株主メモ

| | | | |
|--------------|---------------|---------|--|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 | 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 | | 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 | | |
| 定時株主総会 | 毎年6月 | | |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 上場証券取引所 | 東京証券取引所 |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 公告の方法 | 電子公告により行います 公告掲載URL https://www.yac.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを
提供しております。

<https://www.yac.co.jp>

または、

で検索ください。

ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107
URL <https://www.yac.co.jp>